



5つのプロジェクト

- 1 木質バイオマス利用促進
- 2 安曇野材利用促進
- 3 里山学校
- 4 里山保全・体験学習
- 5 松枯れ対策実践

里山再生計画の具体的な取り組み

さとぷろ。 里山再生に向けて

「市里山再生計画」は、3年間の計画検討期間を経て、平成27年3月に策定されました。平成27年度から平成31年度の5年間を第1次の計画期間として、里山再生に向けた第一歩を踏み出しています。

計画では皆さんが親しみをもつて参加していただけるように、計画に関わるすべての取り組みを愛称として「さとぷろ。」と呼んでいます。また、計画の5つのプロジェクト（以下、PJ）を、具体的な取り組みと位置付け、市民、山林所有者、事業者などの皆さんと行政が協働して進めています。本年度の取り組みについてお知らせします。



薪の生産場所（木質バイオマス利用促進PJ）

1 松枯れ対策実践PJ（松枯れ被害の伐採跡地の確認） 2 里山保全・体験学習PJ（あづみの里山市） 3 里山保全・体験学習PJ（見えざるを見る―ハンターと歩く里山―） 4 安曇野材利用促進PJ（安曇野材を使用した住宅） 5 里山学校PJ（ヒノキ林の間伐実習）

1 木質バイオマス利用促進プロジェクト

木質バイオマスのうち、最も身近に利用できる「薪」を生産・利用します。

本年度は、穂高地域の木材加工会社・林友ハウス工業東の土地に薪づくりを行う場所を確保しました。

現在、ここで生産された薪は、昨年にオープンした「安曇野しゃくなげの湯」の薪ボイラーの燃料として提供されています。

今後は、薪ボイラーへの提供だけでなく、一般家庭での利用や、里山での薪材の伐採から製造までを考えていきます。

2 安曇野材利用促進プロジェクト

市内の里山で生産される「安曇野材」の流通・供給体制の構築と利用促進を図ります。

本年度は、市有林の間伐材（ヒノキ・カラマツ）を製材加工施設に直送し、製材・乾燥・加工までを一貫して行い、市内の一般住宅に安曇野材としてモデル的に供給しました。

3 里山学校プロジェクト

里山で活動するための技術・知識を身に付ける「さとぷろ。学校」を運営します。

本年度は全8回の「さとぷろ。学校」を開校し、第一期生が堀金の「啼鳥山荘」とその周辺のヒノキ林にて座学や間伐の実習を行いました。最後には、のこぎりやチェーンソーを使って、安全に一人一本の木を伐ることになりました。

「さとぷろ。学校」は来年度以降も継続し、里山での活動の輪を広げるリーダーづくりを進めていきます。

4 里山保全・体験学習プロジェクト

里山への関心を持つための第一歩として気軽に参加できる体験型イベントを開催しました。その一部を紹介します。

①あづみの里山市（9月）

市内の里山にある木を気軽に「安曇野材」として展示・購入できる木材市場を開催しました。雨の中、200人程が参加し、安曇野材への関心の高さが

1 木質バイオマス利用促進プロジェクト

木質バイオマスのうち、最も身近に利用できる「薪」を生産・利用します。

本年度は、穂高地域の木材加工会社・林友ハウス工業東の土地に薪づくりを行う場所を確保しました。

現在、ここで生産された薪は、昨年にオープンした「安曇野しゃくなげの湯」の薪ボイラーの燃料として提供されています。

今後は、薪ボイラーへの提供だけでなく、一般家庭での利用や、里山での薪材の伐採から製造までを考えていきます。

2 安曇野材利用促進プロジェクト

市内の里山で生産される「安曇野材」の流通・供給体制の構築と利用促進を図ります。

本年度は、市有林の間伐材（ヒノキ・カラマツ）を製材加工施設に直送し、製材・乾燥・加工までを一貫して行い、市内の一般住宅に安曇野材としてモデル的に供給しました。

3 里山学校プロジェクト

里山で活動するための技術・知識を身に付ける「さとぷろ。学校」を運営します。

本年度は全8回の「さとぷろ。学校」を開校し、第一期生が堀金の「啼鳥山荘」とその周辺のヒノキ林にて座学や間伐の実習を行いました。最後には、のこぎりやチェーンソーを使って、安全に一人一本の木を伐ることになりました。

「さとぷろ。学校」は来年度以降も継続し、里山での活動の輪を広げるリーダーづくりを進めていきます。

4 里山保全・体験学習プロジェクト

里山への関心を持つための第一歩として気軽に参加できる体験型イベントを開催しました。その一部を紹介します。

①あづみの里山市（9月）

市内の里山にある木を気軽に「安曇野材」として展示・購入できる木材市場を開催しました。雨の中、200人程が参加し、安曇野材への関心の高さが

